



## 上手な 野菜の育て方 小玉スイカ

△植え付け ■収穫

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
苗購入				△-△			■■■■				

### ①栽培時期と品種

苗購入				△-△		■■■■					
-----	--	--	--	-----	--	------	--	--	--	--	--

### ②栽培上の注意点

- ①連作すると土壌病害(つる割病)の発生要因となるので、5~6年間の輪作を行う。またウリ科との連作も避ける。なお、ほ場の都合で輪作年限に達しない時は、接木苗を利用する。
- ②高畝にして過湿を防ぎ、肥料を安定的に効かす。
- ③初心者の方は種まきではなく、苗を購入して植えつけて育てることをおすすめします。
- ④病気対策としては、カボチャなどに接ぎ木した苗を使用することで、つる割病などの発生を防ぐことができます。

### ③畑の準備

日当たり、水はけの良い場所を選びましょう。前年、ウリ科の植物が植えられていた場合は避けて下さい。

1株につき1×2.5m程度の広い面積が必要です。苦土セルカ2号を100g/m<sup>2</sup>まいた後、牛ふん堆肥2kg、野菜専用化成250 35g程度施肥を作ります。高畝にし、泥はねを防ぐため、マルチをしましょう。

### ④植えつけ

植えつけが早すぎると霜にあたるおそれがあるので、ゴールデンウィーク後くらいに入手し、土づくりから1週間たった畝に植えつけましょう。浅めに植え、根鉢の表面がまわりの地面よりも高くなるくらいにして軽く土で覆って下さい。植えつけてすぐの苗を寒さや強い風から守るため、ビニールをかぶせるなどして、保護しましょう。ビニールをかぶせる方法としては、苗の四隅に支柱を立てて、大きめの買い物用ビニール袋の底に穴を開けて、苗を囲んで下さい。または、トンネルをつくり、寒冷紗で覆う方法もあります。

ポイント: カボチャやユウガオにスイカを接ぎ木したものが病気にも強く、おすすめします。

### ⑤整枝・授粉

植えつけから1~2週間たつと根づき、苗がどんどん伸び始めます。根づいたのを確認したら、取り除きます。取り除く頃に、親づるからわき芽が出てきますので、根元に近い1~2本を残し、それ以外は取り除きます。子づるから出る孫づるは、着果節まで、すべて取り除きましょう。つる1本につき実1個をそぞろるようにします。

6月下旬には花が咲き始めます。スイカには雄花と雌花があり、そのままでも自然に受粉しますが、確実を期すために人工授粉をして、同時に授粉日を正確に記録することが収穫時期を見きわめるうえでたいせつになります。ポイント: 必ず授粉した日を記録しましょう。花粉の働きが良い午前9時までに授粉作業しましょう。

### ⑥収穫・病害虫防除

授粉から40日くらいが収穫の適期ですが、品種によって微妙に違いがあります。あらかじめ苗の品種を確認のうえ購入するとなお良いでしょう。小玉と大玉でも収穫の日数はことなるので注意して下さい。また、天候や温度によっても収穫する日は変わってきますので、ある程度は慣れや勘も必要になります。

病害虫では、うどんこ病、つる枯れ病、アブラムシ、ウリハムシ、ハダニに注意して下さい。

うどんこ病防除	エコピタ液剤 100倍	収穫の前日まで使用可能
つる枯れ病防除	アミスター20フロアブル 2000倍	収穫の前日まで使用可能 4回以内
アブラムシ防除	トレボン乳剤 1000倍	収穫の3日前まで使用可能 3回以内
ウリハムシ防除	マラソン乳剤 1000倍	収穫の前日まで使用可能 6回以内
ハダニ防除	マラソン乳剤 2000倍	収穫の前日まで使用可能 6回以内